「生きもの共生の日」市長メッセージ

今日、5 月 20 日は、豊岡にとって特別な日です。平成 19 年の 5 月 20 日、日本の野外で 43 年ぶりにコウノトリのヒナがかえった、その日です。豊岡の人たちの長い長い努力が実を結んだ日でした。

そこで豊岡市は、5 月 20 日を「生きもの共生の日」と定め、この日を中心に、生きものとの共生について学び、考え、実践をして見る、というふうに決めました。

あのとき、野外で生まれたコウノトリのヒナを、私たちはみんな心配して見守っていました。暑い日には、親鳥は羽を広げてヒナのために日陰を作り、嵐の時にはぐっとヒナを抱きかかえていました。

懸命に生きようとする命。懸命に守ろうとする命。人間とコウノトリと、姿かたちは違いますけれども、あのコウノトリの親子の姿は、私たち人間の家族の姿でもあります。

私たちをコウノトリの野生復帰に向けて突き動かしてきたもの、それは「命への共感」なのだと思います。

生きものとの共生を考えることは、命のことを考えることでもあります。

命には大切なことが 3 つあると思います。

「命は限られている」、「命はつながっている」、そして「命は支えあっている」ということです。

ひとつめは、「命は限られている」ということです。それぞれの命はたったひとつ、そして 1 回限りです。だから、命はいとおしい、大切だ。私の命は私にとってかけがえのないものです。同じように、皆さんの命は皆さんにとってとても大切なものです。そのことが了解できれば、私たちは人に対し、あるいは他の生きものに対し、もっとやさしくなれるのではないか、もっとお互いを思いやることができるのではないか、そう思います。

命について大切なことのふたつめ。それは「命はつながっている」ということです。

私の命の前には、私の父母の命があります。その上には、祖父祖母の命があります。そしてさらにご先祖様をずーっと遡っていくと、最後は大昔アフリカで誕生したといわれる最初の人類にまでつながっていきます。それだけではありません。その人類、人間の命は、今から 38 億年前、地球のどこかで最初に誕生した生命にまでつながっています。その延々と続いてきた命のつながりの中で、今、私たちは生きています。そのつながりの中のどれかひとつが欠けても、今の私たちはありませんでした。私たちは、他の生きものとは別の何か特別な存在ではありません。私たちもまた、生きものの一員にすぎません。その一員として、私たちはわがままなふるまいをしてはいけない、もっともっと謙虚でなければならないと思います。

命について大切なことの 3 つめ。それは、「命は支えあっている」ということです。私たちは、ぽつんと 1 人で生きているわけではありません。お互いに助けたり、助けられたりしながら生きてい

ます。台風 23 号で大きな被害が出た時も、多くの人々に助けていただき、あるいはお互いに支えあってここまで立ち上がってきました。今、東日本の被災地でも、みんなで支えあい、助けあって頑張って生きています。さらに考えて見ると、私たちはたくさんの他の生きものとの間にも支えたり、支えられたりする関係にあります。そのことにも感謝とともに思いをめぐらせてみてはどうでしょうか。

市では、今、命への共感をまちづくりの基本に据えるべく、「命への共感に満ちたまちづくり条例」の準備を進めています。

5 月 20 日、「生きもの共生の日」。皆さんにも生きものや命のことについて考えていただければ幸いです。